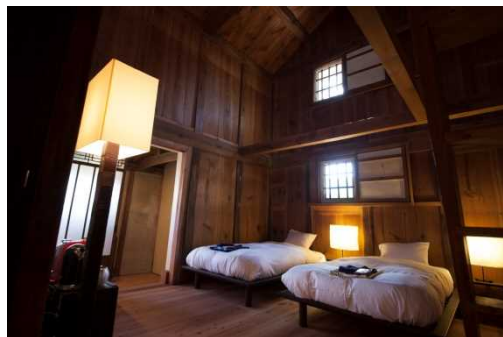




近畿観光 地域づくり事例集 2017



平成29年2月 国土交通省 近畿運輸局

はじめに

我が国の経済成長、地方の創生は、政府の最重要課題の一つです。ご存じのとおり、観光は、幅広い産業に経済効果をもたらし、多くの雇用を生み出すことから、地方創生の切り札として、政府一丸、官民一体となって、観光立国に向けた取組を進めています。

観光の重要性に対する認識が深まる一方で、観光そのもののとらえ方やその内容が変化しつつあります。従来の団体旅行や通過型旅行を中心とした旅行形態から、個人・グループ旅行や体験型志向へとその様相を変え、旅行者ニーズの多様化・個性化が進んでいます。

こういった状況の中、これまで旅行目的の対象としてあまり取り上げられてこなかった地域それぞれにある「自然」、「歴史・伝統」、「産業」、「生活文化」、さらには「地域の人々との交流」そのものが、新たな観光・旅行の目的となっています。これらの資源を再認識、発掘し、さらに有効活用することにより、新たな誘客が生み出され、地域の活性化へとつながっていきます。

そこで、近畿運輸局としまして、管内のキラッと光る創意工夫にあふれた取組の一部を紹介し、熱意を持って観光地域づくりに取り組む方々の活動に向けたヒントになればと考えています。

訪日外国人旅行者数2020年4000万人、2030年6000万人の実現に向け、また、地方創生・地域活性化の一層の推進のためにも、国内外の観光客に素晴らしい魅力を提供できるよう、また、観光を主体とした地域の交流による賑わいがさらに広がっていくよう、共に学び、共に進んでいきたいと願っています。

平成29年2月



表紙写真

左上段…京丹後市 久美浜湾
左中段…大和郡山市 お城まつり
左下段…高島市 川端
中上段…柏原市 大阪ワイナリー
中下段…篠山市 古民家宿泊施設
右 …田辺市 熊野古道

事例一覧

滋賀県

- | | |
|---------------------------------|-----|
| 1. (広域) 滋賀県周遊観光を目指す「ピワイチ」の取組 | p.2 |
| 2. 長浜市 菅浦の湖岸集落景観を活かした取組 | p.3 |
| 3. 甲賀市 陶芸の森でのアーティスト・イン・レジデンスの取組 | p.4 |
| 4. 高島市 針江生水の郷の取組 | p.5 |

京都府

- | | |
|--------------------------------|-----|
| 5. 亀岡市 「京馬車」の取組 | p.6 |
| 6. (北部エリア) 広域観光振興をはかる「海の京都」の取組 | p.7 |
| 7. 南丹市 美山町観光協会の取組 | p.8 |
| 8. 相楽郡和束町 “茶源郷”への取組 | p.9 |

大阪府

- | | |
|------------------------------|------|
| 9. 大阪市 「水都大阪」水上観光の取組 | p.10 |
| 10. 大阪市 大学生による西成での観光まちづくりの取組 | p.11 |
| 11. 大阪市 訪日外国人を呼び込む黒門市場の取組 | p.12 |
| 12. 富田林市 富田林 寺内町の取組 | p.13 |
| 13. 柏原市 大阪ワイナリーを訪問するツアーの取組 | p.14 |

兵庫県

- | | |
|-----------------------------|------|
| 14. 神戸市 神戸でのユニバーサルツーリズムの取組 | p.15 |
| 15. 西宮市 「甲子園歴史館」のインバウンドへの取組 | p.16 |
| 16. 豊岡市 豊岡での日本版DMOの取組 | p.17 |
| 17. 篠山市 丹波篠山での限界集落再生の取組 | p.18 |

奈良県

- | | |
|-----------------------------|------|
| 18. 奈良市 「ならまち」の滞在型プログラムへの取組 | p.19 |
| 19. 大和郡山市 金魚のまち大和郡山の取組 | p.20 |
| 20. 橿原市 外国人大学生の誘致に向けた取組 | p.21 |
| 21. 高市郡明日香村 「民家ステイ」への取組 | p.22 |

和歌山県

- | | |
|--------------------------------|------|
| 22. 和歌山市 「魚」と「無人島」を活用した取組 | p.23 |
| 23. 田辺市 DMC成功の熊野ツーリズムビューローの取組 | p.24 |
| 24. 田辺市 「秋津野ガルテン」のグリーンツーリズムの取組 | p.25 |
| 25. 田辺市 熊野本宮温泉郷の温泉連携の取組 | p.26 |

取材協力：観光経済新聞社 関西支社

滋賀県周遊観光を目指す「ビワイチ」の取組 — 滋賀県（広域） —

注目ポイント

特定の業種だけではなく、異業種も含めた地域連携の実現

【地域の概要】

琵琶湖一周を意味する「ビワイチ」の愛称は、全国のサイクリング、ウォーキングの愛好家たちから親しまれ、滋賀県・琵琶湖の代名詞として広く根付きつつある。滋賀県では、この「ビワイチ」を商標登録し、多彩な観光資源を活かした体験・体感型のツアーで県内を周遊する、観光推進ブランド「ビワイチ」をスタートさせた。

【課題等】

本事例集では、サイクリングに焦点をあて、官民によるサイクルツーリズムの取組を紹介する。「ビワイチ」は、対象エリアが全周約200kmと広大であり、様々な起終点がある中で、関係者と認識を共有し、事業を展開していくことが課題であった。

◆取組の概要等

- ・ビワイチサポートプロジェクト。
- ・同業種との連携・異業種との連携。（主な連携先：NPO法人五環生活、輪の国びわ湖推進協議会、近江トラベル、GIANT JAPAN、セブンイレブン・ジャパン、ヤマト運輸、各地の道の駅、宿泊施設など多様な異業種の団体・自治体との連携、企業との連携。守山市・米原市・高島市・大津市・長浜市ほか自治体等）

【目的】

- ・「ビワイチ」やサイクリングを楽しむ来訪者を迎え入れる取組を県内に広く展開し、また、琵琶湖沿岸以外の地域にも誘客することにより、歴史・文化・豊かな自然、近江牛や湖魚などの食等、滋賀県の多彩な魅力を体感・体験できるサイクルツーリズムを推進する。

【効果等】

- ・平成27年度のビワイチ体験者：52,000人（推計値）

【取組の成果】

- ・取扱店舗等ビワイチサポートステーション126ヶ所。（H29.2.1時点）
- ・旅行会社や鉄道会社、バス会社等による商品化（地元ランドオペレーター、国内旅行会社、台湾の旅行会社等で実績あり）

【中核人材】

三日月 大造氏（滋賀プラス・サイクル推進協議会会長、滋賀県知事）

藤本 芳一氏（輪の国びわ湖推進協議会 会長）、近藤 紀章氏（五環生活 顧問）、田中 将人氏（五環生活 代表）

佐々木 和之氏（輪の国びわ湖推進協議会 事務局長）



サイクリング



レンタサイクルストア（米原駅東口）

問い合わせ先

滋賀プラス・サイクル推進協議会 ツーリズムWG事務局
〒520-0044
滋賀県大津市京町四丁目1番1号 滋賀県商工観光労働部観光交流局
TEL:077-528-3741 FAX:077-521-5030
Email:ff00@pref.shiga.lg.jp
URL:<http://pluscycle.shiga.jp/biwaichisupport/>

菅浦の湖岸集落景観を活かした取組 —滋賀県長浜市—

注目ポイント

歴史文化資源の保存と観光資源としての活用、地元住民による観光ガイド

【地域の概要】

琵琶湖の北端は「奥琵琶湖」と呼ばれ、湖岸まで山がせり出している。その地形は、北欧のフィヨルドのような美しさといわれる。奥琵琶湖、葛籠尾崎の西側に広がる長浜市西浅井町菅浦の湖岸集落景観が、2014年10月、国の重要文化的景観に選定された。

【課題等】

歴史的集落の保存と、観光資源としての活用が始まり、地元では観光ガイドがスタートした。2016年には日本遺産「琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産」の構成文化財として選ばれている。

◆取組の概要等

- ・2014年「重要文化的景観」の指定を受けて、地元住民らで「菅浦『惣村』の会」を結成。
- ・観光客向けに集落内を約1時間半で案内する。奥琵琶湖の隠れ里として知られ、白洲正子氏の随筆「かくれ里」（第24回読売文学賞）でも紹介されている。

〈集落の特徴〉

菅浦集落は山裾と湖水にはさまれた狭い平地にある。中世の惣村の特徴を今も残す貴重な風景。村掟や年貢の催促状など「菅浦文書」と呼ばれる豊富な史料も現存。自治を守る知恵と教訓を子孫に残している。集落のシンボルは『四足門』。菅浦で惣村の姿を印象付けるのは集落の東西にある2つの『四足門』である。高さ3.8メートル、棟の長さ3.5メートルの茅葺き屋根を持つ。史料から15～16世紀には4つの門があったことが分かっているが、現存する2基は江戸後期以降に建てられたとみられる。門扉はなく、集落の領域を示す役割を果たした。湖の波浪から家屋を守る石垣も湖岸に並ぶ。

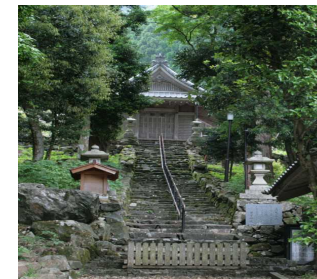
【情報発信】

- ・主要な情報発信のツールとして、長浜・米原・奥琵琶湖を楽しむ観光情報サイトに力を入れている。

【取組の成果】

「菅浦『惣村』の会」ガイド件数

平成27年度	192人
平成28年度	150人（見込み）



須賀神社（拝殿）



菅浦の湖岸集落景観



四足門



菅浦郷土史料館

問い合わせ先

奥びわ湖観光協会
〒529-0492 滋賀県長浜市木之本町木之本1757-2
TEL:0749-82-5909
E-mail:kanko@okubiwako.jp
URL:<http://kitabiwako.jp/>

陶芸の森でのアーティスト・イン・レジデンスの取組 —滋賀県甲賀市—

注目ポイント
アーティスト・イン・レジデンスに
長年取り組んできた成果

【地域の概要】

滋賀県立 陶芸の森は、滋賀県甲賀市の信楽高原にある美術館と信楽焼のショップ＆ギャラリーと研修施設を備えた都市公園。信楽焼の情報発信と文化・産業の振興、人材育成、文化創造の環境提供、そして県民のレクリエーションを目的として1990年6月に開設。2年後からアーティスト・イン・レジデンスとよばれる滞在型の陶磁器制作スタジオ、新進の陶芸家への創作の場の提供を目的とした先進的な取組をスタートさせた。

【課題等】

開園当初から世界へのやきもの文化および信楽焼の情報発信を目的にしていた。信楽焼は日本国内でも実用的な陶器としてニーズが高いが、アート作品として陶芸文化のブランドを高め、地域の地場産業として後継者の育成、観光資源としての磨き上げが必要となっている。

◆取組の概要等

- ・アーティスト・イン・レジデンスは、創作研修館で、1992年の開館以来世界各国から陶芸家を受け入れ、信楽の地で自由に作品を制作する機会を提供してきた。カリキュラムのようなものではなく、創作研修館という「創作の場」で各自それぞれが自身のメニューで制作出来る。
- ・常時10人前後の陶芸家が制作している。作風や国籍などの異なる人々との交流を深めることで、刺激的な創作環境を提供。
- ・同事業は、大きく二つの形態にわかれている。①スタジオ・アーティストは、応募、選考のプロセスを経て同館で滞在、制作する作家。②ゲスト・アーティストは、陶芸の森が招聘した作家。ゲスト・アーティストの一部については、公募制も取り入れている。

【情報発信】

- ・主要な情報発信のツールとしてはホームページに力を入れている。

【取組の成果】

- ・陶芸の森全体では年間約35万人が来場。外国人来場者も増えており、有料施設で年間約500人が来館。無料ゾーンは約5,000人の入場。
- ・アーティスト・イン・レジデンスでは、これまで50の国と地域、約1,000人が滞在。その後定住した作家もいる。
- ・2015年度にアーティスト・イン・レジデンスをテーマにシンポジウムを開催。シンポジウムの成果として「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2016」を開始。ネットワークのシステムづくりを具体的に進めることで、歴史ある日本の文化の一つである陶芸分野における海外との交流、日本からの発信をさらに充実させる。陶芸の森が国際的に陶芸分野のレジデンスのハブ機能を持つ拠点機関としての役割を果たしていく。



陶芸の森の各施設



オープンスタジオ



制作風景

問い合わせ先

公益財団法人 滋賀県立陶芸の森 総務課
〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨2188-7
TEL:0748-83-0909 FAX:0748-83-1193
URL:<http://www.sccp.jp/>

針江生水の郷の取組 —滋賀県高島市—

注目ポイント

地域保全から持続可能な観光まちづくり
への取組

【地域の概要】

針江地区には豊富に湧き出る安曇川水系の伏流水を活かした人里の生活環境「川端文化」（かばたぶんか）が存在する。
湧水（針江の生水）は環境省選定の「平成の名水百選」であり、隣接する霜降（しもふり）地区とともに国の重要文化的景観に選定されている。

【課題等】

2004年1月に 写真家・今森光彦氏の指揮の下、NHKによって製作されたドキュメンタリー番組『〈NHKスペシャル〉映像詩 里山〜命めぐる水辺〜』が放送され反響を呼び観光客が急増した。海外でも放送され外国人観光客も訪れるようになった。地方の静かな住宅地に住む住民の生活と川端文化を守るため、観光地化せずに、まちを紹介する仕組みが必要となった。

◆取組の概要等

- ・針江生水の郷委員会が2004年4月に地域住民で針江生水の郷委員会を発足。急増した観光客のガイドを開始。現在は予約制で有料（案内料金）のガイドツアーを実施している。
- ※川端のしくみ：針江集落は、地区のほとんどの家（現在110戸あまり）では20m前後打ち込んだ鉄管から四季を通じて水が湧き出ており、飲料や炊事など日常生活に利用している。

【目的】

- ・地域の生活、川端文化保全のため、案内料金は環境協力費として、地域の環境整備・保全や水に恵まれない世界の子供達への寄付等に使用。
- ・環境に対する取組を多岐に渡り実施している。

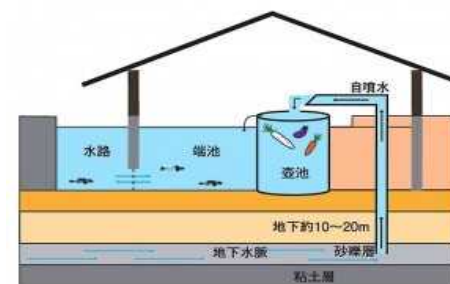
【情報発信】

- ・主要な情報発信のツールとしてはSNSとホームページに力を入れている。
- ・国内、海外の取材の受け入れが多く、外国のガイドブックにも紹介されている。

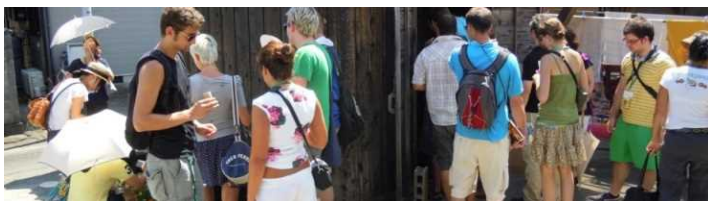
【取組の成果】

2006年「豊かなむらづくり」農林水産大臣賞受賞
2008年「平成の名水百選」に「針江の生水」が選定
2011年「第4回淡海の川づくりフォーラム」グランプリ受賞
2012年「第7回エコツーリズム大賞」優秀賞受賞
2014年「第9回エコツーリズム大賞」大賞受賞
2015年「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」として日本遺産に認定される。

【中核人材】 三宅 進氏（針江生水の郷委員会 会長）



川端（かばた）とその仕組み



ガイドツアーの様子

問い合わせ先

針江生水の郷委員会
〒520-1502
滋賀県高島市新旭町針江372 針江公民館前 針江生水の郷委員会事務所
TEL/FAX:0740-25-6566
Email:shozunosato@lapis.plala.or.jp
受付時間 9:00～15:00（冬季は10:00～15:00）電話での受付時間。
FAX、Emailは24時間受信可能

「京馬車」の取組 —京都府亀岡市—

注目ポイント
伝統的な観光体験に、
新たな付加価値づくり

【地域の概要】

湯の花温泉のある亀岡と国の史跡と名勝に指定されている嵐山を結ぶ観光商品としては、保津川下りや嵯峨野トロッコ列車が有名。

【課題等】

嵯峨野トロッコ列車の終着点であるトロッコ亀岡駅を出発点とし、観光客を保津川下り乗船場に繋ぐ交通手段としてスタート。単なる移動手段ではなく、新たな交通手段として、体感できる観光馬車サービスを開発した。

◆取組の概要等

- ・2014年4月より保津川遊船事業組合と連携してラフティングと馬車のセット商品を販売開始。
- ・地元亀岡市の自然や文化を残しつつ地域活性化に寄与する事業として、目的や安全への取組、実施方法を丁寧に説明し地域の理解を得た。
(馬車観光と体験ラフティングを一度に楽しめる観光体験型商品では、ラフティングの設定コースを初心者向けにしたので、子供や中高年の利用数が多い)
- ・同業種では、ハウステンボスの馬車事業者と連携。
- ・異業種では、嵯峨野観光鉄道や保津川下り、亀岡市等の協力を得る。
- ・小中高の教育旅行の体験学習として利用も多い。
- ・動物系の専門学校や連携している事業者からの紹介等で、若手後継者や新規人材の獲得と育成を行っている。

【情報発信】

- ・主要な情報発信ツールは、パンフレット、HP、SNS系ではFacebook・ツイッター、専用ブログ等、体験サイトや観光商談会等。
特に力を入れているツールはFacebook。
- ・Facebookで利用者が記念写真を無料で閲覧できるサービスは好評。

【取組の成果】

- ・開業以来利用者数は微増ながら右肩上がり。外国人利用者数も年々増加傾向。体験プログラムの予約方法は、メール、電話等。メール予約の方法を改良中。嵯峨野観光鉄道 トロッコ嵯峨駅構内にて申込みチケットを販売中。ドラゴンズバック名鉄観光バス・カッコーツアー名阪近鉄旅行・H I S等で商品化。

【中核人材】

木村 雅彦氏（株式会社京馬車 代表取締役）



観光馬車サービス



トロッコ列車と馬車



ラフティング

問い合わせ先

株式会社 京馬車
本社所在地：〒621-0814 京都府亀岡市三宅町八田39-2
営業場所：〒621-0825 京都府亀岡市篠町山本地黒20トロッコ亀岡駅北側
TEL:0771-23-0920 FAX:050-3730-2053
Email:info@kyobasha.jp
URL:http://www.kyobasha.jp/

広域観光振興をはかる「海の京都」の取組 —京都府北部エリア—

注目ポイント

広域連携組織の連携促進を具体化するために、日本版DMOに登録

【地域の概要】

2014年に観光庁の広域観光圏制度において「海の京都観光圏」として認定されたエリア。福知山市、宮津市、舞鶴市、綾部市、京丹後市、伊根町、与謝野町で構成される。京都府では、府内の観光による広域連携を「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」として進めている。

【課題等】

観光圏整備法に基づき観光地間の相互連携による観光圏整備計画の目標達成が求められるが、各地域の海の京都関連の観光振興の進捗・成果は地域間格差等が見られ、目標達成等が厳しい状況であるとともに、真の地域主導、民主導の観光地域づくりに向けた組織の強化が求められていた。また、北部7市町は京都府北部連携都市圏形成推進宣言に基づき、北部連携都市圏を早急に実現する必要があるが、連携の具体化はできていなかった。

◆取組の概要等

2016年11月に観光庁から、日本版DMO候補法人登録制度が発表されたことをきっかけとして、「京都府北部連携都市圏形成推進宣言」の具体化、観光圏で求められているブランド観光地域認定に向けた取組を推進している。

【取組・情報発信】

- ・科学的なアプローチによるC S 調査やマーケティング調査事業
- ・着地型旅行・体験型商品等造成・販売促進、物産等物販事業
- ・インバウンド推進事業
- ・人材育成・確保、地域づくり事業
- ・情報発信・プロモーション事業
- ・民間企業との連携…海の京都観光推進協議会は解散せず、DMOの取組を地域の多様な関係者がサポートする合議組織として新たに位置づけ、DMOへの意見・提言を行う機関としての役割を担うこととしている。

【効果等】

- ・天橋立滞在促進地区、夕日ヶ浦滞在促進地区の延べ宿泊者数 311千人（2015年）
- ・海の京都観光入込客数 9,230千人、海の京都外国人宿泊者数 33,051人（2015年）

【中核人材】

大同 一生氏（京都府北部地域連携都市圏振興社 社長、京都銀行特別顧問）



京丹後 久美浜湾



伊根舟屋 夏



天橋立（傘松公園）

問い合わせ先

一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社
〒629-2501
京都府京丹後市大宮町口大野226京丹後市役所大宮庁舎内
TEL:0772-68-5055 FAX:0772-68-5056
Email:info@uminokyoto.jp
URL:http://www.uminokyoto.jp

美山町観光協会の取組 —京都府南丹市—

注目ポイント

時間をかけて住民の気持ちを一つにした
まちづくり

【地域の概要】

京都府のほぼ中央に位置する南丹市美山町は、その大部分を森林が占める。町の中央には、鮎で有名な清流を誇る由良川水系の美山川、南北に走る棚野川が走り、それらの川に沿って古いかやぶきの住居が多数現存し自然景観と見事に調和している。

【課題等】

地場産業である木材需要が減り不況に陥っていた。高齢化率が高く、少子化が進み、総人口も減少してきたことで、何らかの対策が必要という危機感があった。

◆取組の概要等

- ・美山町の町おこしと観光推進をめざし1985年に観光協会を設立。
- ・北集落住民の気持ちが一つになるまで、10数年かけて話しあい、さまざまな取組が行なわれるようになった。
- ・「美しい町づくり条例」を制定し、平成5年12月北集落が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定。他にもホテル保護条例等が制定された。
- ・季節のイベントの実施

春 大野ダムさくら祭り、美山サイクルロードレース

夏 清流美山の鮎まつり、美山サイクルグリーンツアー

秋 大野ダムもみじ祭り、美山ふるさと祭り、ワンデーマーチ、楽農祭り

冬 雪灯廊、雪祭り

- ・かやぶきの里 一斉放水

重要伝統的建造物群保存地区のかやぶきの里「北」では、毎年春と秋に地域住民の火災予防講習と放水銃の一斉点検を行っている。2000年5月に美山民俗資料館が不審火で焼失したのをきっかけに、防火用放水銃の点検を目的とした防火講習を年に2回、春と秋に開催。住民の防災意識を高めるだけでなく、訪れる観光客にも、この訓練を通じて、文化財を火災から守る必要性を理解してもらう側面もある。一斉放水の珍しさから、観光イベントとして人気も高い。

【取組の成果】

- ・台湾の人気ブロガーの発信により数年前から台湾からの観光客が増えている。
- ・特に冬場の観光客数が増えた。
- ・日本国内の旅行会社による商品化も進んでいる。（JTB、クラブツーリズム、京阪京都交通 他）



美山 かやぶきの里



美山 きたむら



美山 かやぶきの里 一斉放水

問い合わせ先

美山町観光協会
〒601-0722 京都府南丹市美山町安掛下23
TEL& FAX:0771-75-1906
Email:kayabuki-miyama@cans.zaq.ne.jp
URL:<http://www.miyamanavi.net/>

“茶源郷”への取組 —京都府相楽郡和束町—

注目ポイント

地域産品や地域の景観をいかした
新たな取組

【地域の概要】

京都府南部に位置する和束町は別名“茶源郷”とも呼ばれ、特産品であるお茶は、京都府における栽培面積の約40%を占めるなど、宇治茶の主産地になっている。2015年には、その歴史と景観が認められ日本遺産に認定されている。

【課題等】

茶農家の高齢化や若者の日本茶離れが進む中、地域の特色であるお茶を①基幹産業である飲むお茶、②景観など見るお茶、③茶摘みや農家民泊、お茶淹れなど体験するお茶、④お茶の佃煮などの食べるお茶、とコンセプトを決め、特に体験プログラムによる交流人口の増加を図った。

◆取組の概要等

- ・主な事業は、観光客の誘客、特産品の開発、農園、宿泊事業（京都 和束荘）。
- ・お茶を活かした体験等による交流人口の増加、茶業後継者の育成、体験をきっかけに和束ファンの獲得→移住→町内で茶業などに就いてもらうことが目標。
- ・具体的に行っている取組、事業やイベント
 - 生活体験（2015年度～）、茶を活かした体験型観光（茶摘み、お茶淹れ等）、スウェーデンスカウト（「スカウトジャンボリー世界大会」で訪日したスウェーデンのスカウト隊）600人程度、外国語パンフレットの作成。
 - 思いがけない良い点（効果等）としては、体験農家同士や民泊受入家庭同士など住民同士のつながりが出来たこと。外国人を含め、外部の人との交流を楽しむ住民が増えたことで町の観光客誘致に理解を示す人が増えた。
 - 茶農家・団体との緊密な関係構築。横と縦のつながりを重視。
 - 飲食や観光関係との連携としては、和束茶カフェ、恋茶グループ（弁当）、ガイドの会（ツアー）、農家民宿。
 - 光華女子大学、大阪国際大学など観光を学んでいる学生を受入れ、民泊やお茶淹れ体験を実施。

【情報発信】

- ・主要な情報発信ツールは、HP「いいとこ和束～茶源郷～」、英中多言語対応パンフレットを旅行会社に配布し営業、商談会を実施。

【取組の成果】

- ・交流人口の増加。地道な営業により修学旅行生が徐々に増えている。住民の理解が広がり民泊の受け入れ先が増えた。多言語パンフレットの作成によって外国人への町の周知につながった。
- ・観光入込客数 平成24年：39,094人→平成27年：81,783人
- ・民泊登録件数 平成26年度：13件→平成27年度：39件
- ・体験プログラム利用者数（生活体験）→平成27年度：325人

【中核人材】 中西 志帆氏（和束町活性化センター・ふれあい観光事業）



石寺の茶畑



お茶淹れ講座



民泊

問い合わせ先

一般財団法人 和束町活性化センター
〒619-1222 京都府相楽郡和束町白栖大狭間35番地
TEL:0774-78-3396 FAX:0774-66-3496
Email:wazuka-t@chagenkyo.com
URL:http://wazukanko.com

「水都大阪」水上観光の取組 —大阪府大阪市—

注目ポイント
河川や水辺空間を活用した
体験プログラムづくり

【地域の概要】

「水都大阪」再生の取組が、2001年に内閣官房都市再生本部によって都市再生プロジェクトに指定されたことが契機となり、大阪府、大阪市、関西経済界が一体となって実施している。

【課題等】

大阪は、水都大阪と呼ばれているものの河川を活用した観光コンテンツが少なく、また治水優先、建物裏面として整備された水辺は人が集まるような場所ではなかった。

◆取組の概要等

- ・水都大阪と呼ばれる大阪の水上観光を通じての地域活性化。一本松海運で実施している主な事業は、「落語家と行く なにわ探検クルーズ」「とんぼりリパークルーズ」「中之島リパークルーズ」「とんぼりリバージャズボート」など。
- ・取組を開始後、海運会社、地域の人々、行政担当者、河川観光と水辺周辺の賑わいによる相乗作用から大きな効果を得ることができるという認識を共有することができるようになり、方向性（ベクトル）が1本化されてきた。
- ・業界団体として大阪シティクルーズ推進協議会にて、積極的にプロモーション活動（イベント等）を展開。同協議会の企画として大阪市内、今年からは大阪府内の小学生に向けた体験誘致企画を推進。具体的には春の企画クルーズにおいて小学生が無料になるリーフレットを教育委員会を通じて全生徒にクラスで配布。水都大阪への理解や認識を、子どもたちやその家族に伝えるために取り組んでいる。また地域医療機関とも連携し、入院中の子どもたちとその家族向けに招待クルーズを継続実施している。

【情報発信】

- ・主要な情報発信ツールは、パンフレット、観光誌への広告出稿、最近ではHP、SNS。メディア取材、視察会等は積極的に実施し、また受け入れている。特に力を入れているツールはSNS。

【取組の成果】

- ・各クルーズ事業を開始するまではあくまでチャーターメインのクルーズ事業であり、乗船者数もわずかなものであった。平成15年「落語家と行く なにわ探検クルーズ」の開始でまず日本人観光客が増加し、平成23年から道頓堀川でのミニクルーズ「とんぼりリパークルーズ」中心に外国人観光客が増加。事業全体では平成27年度は約40万人、平成28年度は約45万見込。
- ・外国人利用者は事業全体として平成23年度約7,000人から平成27年度約28万人、平成28年度は約33万人見込。

【中核人材】

一本松 榮氏（一本松海運 代表取締役）



落語家と行く なにわ探検クルーズ



とんぼりリパークルーズ

問い合わせ先

一本松海運株式会社
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島6-4-7
TEL:06-6441-0531 FAX:06-6441-0530
URL:<http://www.ipponmatsu.co.jp>

大学生による西成での観光まちづくりの取組 —大阪府大阪市—

注目ポイント

大学生主体の地域に根をはった観光まちづくりの社会的実践

【地域の概要】

あいりん地区は、大阪府大阪市西成区の北部、JR西日本新今宮駅の南側に位置する簡易宿所・寄せ場が集中する地区の呼称である。

【課題等】

野宿問題がまだ深刻で、あいりん地区の簡易宿所はガラガラ状態で経営難に陥っているところも多かった。かつての暴動の影響もあり、地域イメージはとても悪く、日本人のビジネスマンも観光客も集えるような状況ではなかった。

◆取組の概要等

阪南大学の学生による西成区内での観光まちづくりの実践的社会的活動。その時々地域の課題に、学生と教員が一緒になって現場教育の姿勢で取り組む。大阪府簡易宿所生活衛生同業組合との協働活動が、同組合内に2005年「大阪国際ゲストハウス地域創出委員会」を創設したことに始まり、その後、2009年に「新今宮TIC（ツーリスト・インフォメーション・センター）」を創設。その運営のため、多数の学生がこの街と日常的に関わるようになり、地元の商店街や住民との信頼関係も急速に構築された。

【具体的な取組】

- 1：新今宮TICを拠点とした外国人旅行者向けのまち歩きツアーの実践（年数回程度）
- 2：西成WANと西成ジャズの活動支援（イベント時に短期集中の手伝い等の支援）
- 3：星空スタンドのインフォメーション業務への協力（イベント時に短期集中の手伝い等の支援）
- 4：なんば駅前ひろば社会実験への参加
- 5：西成およびその周辺の宿泊施設の実態調査および経営者への聞き取り調査

【目的】

- ・西成区あいりん地区へ外国人個人旅行者を呼び込むために簡易宿所の再生を支援する。
- ・外国人個人旅行者に旅や地域の情報を提供することで、滞在の長期化及び地域での観光消費増につなげ、多様な手法で地域を再生する。

【取組の成果】

- ・2004年外国人のべ宿泊数9,293泊⇒2016年176,467泊へ急増。（あいりん地区宿泊施設9軒の情報提供による）地域全体での推計は約30万泊超、年間日本人宿泊客はのべ40万泊以上。
- ・外国人向けのまち歩きツアーの参加者はのべ約500名。利用者は全て外国人個人旅行者。

【中核人材】

松村 嘉久氏（阪南大学国際観光学部教授） ※その他、歴代のゼミ生たちが活動している。



簡易宿所の前



ツーリストインフォメーションセンター前



活躍する大学生

問い合わせ先

阪南大学国際観光学部 松村嘉久研究室
〒580-0033 大阪府松原市天美南1-108-1
TEL:072-332-1224（代表）
URL:<http://www.hannan-u.ac.jp/doctor/2016.html?t=91>
<http://www.hannanu.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/index.html>

訪日外国人を呼び込む黒門市場の取組 —大阪府大阪市—

注目ポイント
市場への集客・活性化を
インバウンドで実現

【地域の概要】

大阪府大阪市中央区日本橋1丁目・2丁目にある市場・商店街。古くから大阪を代表する市場で、鮮魚、青果、肉・卵など食料品を扱う店が多い。店舗数は約180軒。

【課題等】

長引く不況の中で、黒門市場にどうすればたくさんのお客様に来ていただけるのかということが課題であった。

◆取組の概要等

- ・2011年頃、取組をスタート、多くの外国人観光客が訪れている。
- ・マグロ解体ショー、無料休憩所の改修や、無料WiFiの設置をはじめ、商店主向けの英会話教室なども開催している。多言語マップやパンフレットの作成、インフォメーションセンター、外貨両替機、トイレの設置を実施。組合員の為に必要な共同事業を行うとともに、地区内の環境の整備改善を図る為の事業を行うことにより、組合員の事業の健全な発展に寄与し、あわせて公共の福祉の増進に資することを目的とする。
- ・日本を代表する食材の専門商店街として世界に発信し、世界中から来街してもらえる商店街となることを最終的な目的とする。
- ・特に大きな障害となったことは、施設（無料休憩所）取得にかかる費用の捻出。
- ・異業種との連携としては、都道府県の観光PR活動、信用金庫との連携で外貨両替機の設置。
- ・教育機関との連携は、近隣の小学校、中学校からの体験学習の受け入れ、日本語学校からの外国人留学生の社会学習の受け入れを実施。

【情報発信】

- ・主要な情報発信ツールは、日本語・外国語版のパンフレットを作成し、大阪市内の宿泊施設等に設置、HPの多言語化、ツイッター、フェイスブックの導入。特に宿泊施設等に設置しているパンフレットに力を入れている。

【取組の成果】

- ・通行量調査：平成18年 18,000人/日→平成28年度 26,000人/日
- ・インバウンドで話題になることで、過去には少なかった地方からの日本人観光客や10代、20代の若者の来街が増加した。想定外の悪い点としては、近隣の従来の利用客が減少した。

【中核人材】

山本 善規氏（黒門市場商店街振興組合 理事長）



黒門市場の様子



問い合わせ先

黒門市場商店街振興組合
〒542-0073 大阪市中央区日本橋2丁目4-1
TEL:06-6631-0007 FAX:06-6643-6464
Email:office@kuromon.com
URL:http://www.kuromon.com

じないまち
「富田林寺内町を守り育てる会」の取組
—大阪府富田林市—

注目ポイント
重伝建地区での、地域主導による
観光まちづくり

【地域の概要】

富田林市寺内町は大阪府内唯一の重要伝統的建造物群保存地区。1973年の「富田林寺内町をまもる会」の発足をスタートとして、住民主体のまちづくりも始まった。

【課題等】

近年は全国的な人口減少や消滅都市の危機感などから、観光振興による交流人口拡大、地域ブランドの向上、市内への定住者拡大の取組が必要となってきた。

◆取組の概要等

- ・富田林寺内町地区の景観保全とまちづくり→じないまち交流館の管理運営、地域イベント等の実施、伝統的建造物群保存修理事業の推進、機関紙の発行、会員研修等。地区内の各種イベントへの協力。
- ・町家を利活用した商店主で組織された「富田林じないまち文化トラスト」によるイベントの開催や「LLPまちかつ」による空き町家の所有者と創業・起業希望者とのマッチングにより、近年には地区内および周辺地域に寺内町との調和を重んじた新たな事業者（カフェ・ベーカリー・工房・ギャラリー・レストラン・ゲストハウスなど）が約40件開業、歴史的・文化的な魅力に新たなエッセンスが加わり、観光に必要とされる「見る・食べる・体験する」が芽吹きを始めている。海外からの来訪者も見られるようになってきた。

【目的】

- ・地域住民が主体となり、富田林寺内町の伝統ある美しい町並みを守るとともに、豊かなまちづくりを進める。

【効果等】

- ・様々な団体が自主的に結成され主体的に活動を始めたことがまちづくりを加速させた。「富田林じないまち文化トラスト」や「LLPまちかつ」などの活動が、寺内町のまちづくりに新たな視点をもたらした。

【連携先】

- ・行政は町並み保存としてハード整備や家屋修景支援、さらにはプロモーションとしてイベント開催支援やPRを実施している。
- ・教育機関では阪南大学および大阪芸術大学がそれぞれ富田林市と連携協定を締結。観光まちづくり等において地域と市および大学が協働している。
- ・観光交流施設きらめきファクトリーは富田林市観光協会と富田林商工会および大阪芸術大学の3者が事業共同体を形成し指定管理者として運営。

【情報発信】

- ・機関紙「寺内町瓦版」、観光交流施設「きらめきファクトリー」の各種媒体をはじめ、富田林市の広報媒体で情報発信。特に、力を入れているツールはパブリシティ。取材やロケーション等に対しては行政や観光協会が窓口となり、取材対象者とのコーディネートなどを行う。

【取組の成果】じないまち四季物語来場者数 平成23年度14,500人→平成27年度21,300人



空き町家活用事例



地域イベント
じないまち四季物語・春「雛めぐり」



富田林寺内町
＜重要伝統的建造物群保存地区＞

問い合わせ先

富田林市長公室都市魅力創生課
〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 じないまち交流館内
TEL:0721-25-1000 内線420 FAX:0721-20-0200
Email:sousei@city.tondabayashi.lg.jp
URL:<http://park10.wakwak.com/~kouryukan/mamori.html>

大阪ワイナリーを訪問するツアーの取組 —大阪府柏原市—

注目ポイント
地域資源の再発掘による
着地型観光商品づくり

【地域の概要】

大阪府はぶどう栽培が盛んで、全国第9位の収穫量（5,140トン）を誇るぶどう産地であり、全国に出荷している。特に主力品種のデラウェアでは、収穫量全国第3位。

【課題等】

大阪は昭和初期日本で一番のブドウ生産地であったが、それが知られていない。ワイン＝大阪のイメージがなく、ブランドとしては弱かった。

◆取組の概要等

- ・(株)インプリージョンが参画する「OSAKA旅めがね」大阪府農商工連携事業・着地型観光プログラム開発の一環として、2010年当時観光受け入れは特にしていなかった大阪ワインに着目した。（100年の歴史はあるが、あまり知られておらず、ワイナリー見学は無料or1,000円程度）
- ・女性をターゲットにした上質なワイナリーツアーを目指し、初めての取組を実施。畑とワイナリーの見学だけでなく、畑下のおしゃれな空間でワインとランチが楽しめるよう工夫を凝らし、「カシモワイナリー大人の遠足ツアー」、「河内ワインマイワインづくり体験ツアー」を、ワイナリーと協議を重ね企画した。（各ツアーすべて満員）
- ・大阪ワイナリーツアーは人気プログラムとなり、大阪ワインのファンづくりにつながった。
- ・活動が2012年大阪のワイナリー協会、2016年関西ワイナリー協会の発足のきっかけとなり、さらなる発展へとつながった。

【取組の成果】

- ・着地型観光大阪ワインツアー参加者700人。（各OEM、OSAKA旅めがね含む）
- ・大阪ワインツアーは当初150名程度→現在各ワイナリー自主企画としてワインツアーを実施して、年間約10,000人を受け入れている。
- ・2016年11月総務省地域経済グローバル創造循環事業「上海上インフルエンサー招聘大阪ワイナリーツアー」として上海のミシュラン店のオーナーなどを招いた。

【中核人材】

森 なおみ氏（インプリージョンツーリズム事業部プロデューサー）

協力者

高井 利洋氏（カシモワインフード代表取締役）、金銅 真代氏（河内ワイン専務）、金銅 重行氏（河内ワイン社長）、仲村 現二氏（仲村わいん工房代表）、仲村 裕三氏（飛鳥ワイン代表取締役）、藤丸 智史氏（フジマル醸造所代表）



大阪ワイナリーのロゴ



大阪ワイナリー協会のチラシ



大阪ワイナリーツアー

問い合わせ先

株式会社インプリージョン
〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-4-48 金村ビル3F
TEL:06-6624-8555 FAX:06-6624-8505
Email:info@impreregion.jp/
URL:http://impreregion.jp/dom/s/

神戸でのユニバーサルツーリズムの取組 — 兵庫県神戸市 —

注目ポイント
ユニバーサルツーリズムを通じた
ネットワークづくり

【地域の概要】

ユニバーサルツーリズムとは、すべての人が楽しめるよう創られた旅行であり、高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行を目指す活動。推進する上では、旅行の「送り手（旅行業者）」、「受け手（観光地）」双方の取組が重要であり、観光庁においても両者の視点から調査・検討がなされてきた。

【課題等】

神戸に限らず、何らかの障がいのある人たちは、いろいろな観光地に行きたいと思っているが、その障がいのため旅することを諦めざるを得ない状況があった。神戸では、2005年から市民によるプロジェクトが進んでいる。

◆取組の概要等

- ・高齢者や障がいのある人たち、日常的に介助する人たちが一緒に旅を楽しむ環境を日本の各地に創り出すことを目的とした活動。
- ・ユニバーサルツーリズムに関する事業として、ユニバーサルライフ情報紙『びと』発行、「KOBEどこでも車いす」事業、ユニバーサルホスピタリティ研修等を実施。
- ・神戸市（観光交流課など）の支援を受けながら、ユニバーサルツーリズムに関するセミナーとフォーラム開催。全国各地域にユニバーサルツーリズムの水平展開。
- ・サービス産業事業所を対象としたユニバーサルホスピタリティ研修会、モニターツアーの実施。
- ・神戸ユニバーサルツーリズムセンターは、旅行業第2種として、バリアフリーツアーを商品化。
- ・宿泊施設において、ペースト状のおせち料理をつくり始めた等の効果も出てきている。

【連携先】

- ・2011年、NPO法人日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワークを設立し、現在13か所に広がっている。異業種との連携は、医療福祉・移送サービス事業所、北海道から沖縄までのNPOや行政、観光、宿泊事業所と行っている。2016年度は鹿児島・長崎・草津（滋賀県）・伊豆などと連携している。
- ・教育機関では、大学からユニバーサルツーリズムに関するインターンシップの受け入れ。卒業論文としての協力・特別支援学校からの実習参加。

【情報発信】 ユニバーサルライフ情報紙『びと』の発行。ホームページによる情報発信。youtubeにおいてユニバーサルツーリズム取組の映像発信。

【取組の成果】

- ・全国にユニバーサルツーリズムのネットワークの充実と水平展開。兵庫県内では城崎・姫路・淡路とのネットワーク化。コーディネート件数を含め増加している。国内の旅行が主。内、外国人利用者数は1件。宿泊や体験プログラムの予約状況は年々増加。昨年度の旅行関係総売り上げは約1,000万円。

【中核人材】

鞍本 長利氏（神戸ユニバーサルツーリズムセンター 代表理事）



神戸ユニバーサルツーリズムセンター
(神戸中突堤中央ビル2F)



神戸市内をめぐるバリアフリーツアー

問い合わせ先

神戸ユニバーサルツーリズムセンター【NPO法人 ウィズアス】
〒650-0042 神戸市中央区波止場町5-4 中突堤中央ビル2F
TEL:078-381-6470 FAX:078-381-6470
Email:info@wing-kobe.org
URL:http://wingkobe.org

「甲子園歴史館」のインバウンドへの取組 —兵庫県西宮市—

注目ポイント

甲子園球場のインバウンドへの挑戦
(映画公開を契機としたインバウンド誘客増加)

【地域の概要】

甲子園歴史館は2010年3月の阪神甲子園球場リニューアル完了に伴い、球場レフト外野スタンド下に誕生。高校野球、阪神タイガース、阪神甲子園球場の歴史を一堂に集めた展示施設で、日本高等学校野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社、阪神タイガースの特別協力を得ながら、阪神電気鉄道が運営する有料施設である。

【課題等】

取組開始以前は、2013年度のインバウンド団体客は2団体。訪日外国人の受け入れ体制等もノウハウがほとんど無い状態だった。

◆取組の概要等

- ・映画の影響により、現在台湾人が多数来訪。
- ・2014年2月、台湾で高校野球を題材にした台湾映画「KANO」が公開されることが決定したことをきっかけにインバウンド客の誘致を開始。
- ・映画「KANO」が台湾で空前の大ヒットという追い風を受け、現地でニーズを調査。映画「KANO」展示コーナー設置、年4回程度の現地旅行代理店営業を開始。
- ・インバウンド団体の早朝入館対応の実施、球団主催試合における「台湾デー」の実施などを行った。※早朝入館は、要望を受け条件があった際は国内団体も対応。
- ・阪急阪神グループ内でインバウンド誘致で先行していた、六甲山観光(株)との連携も強化し、旅行代理店の紹介を受けたり、営業に同行した。
- ・台湾観光協会、タイガーエア(台湾)、大阪観光局、西宮市観光ブランド発信課との連携も進めた。
- ・主要な情報発信ツールは、HP、SNS、広告(パワーブロガーなど)。特に力を入れているツールは、パワーブロガーによる記事投稿。

【取組の成果】

- ・取組以前(2013年)の来館者数：92,000人→取組後(2014年)116,000人、(2015年)124,000人。内、外国人利用者数及び推移(2013年：数百人、2014年：約14,000人、2015年：約15,000人 ※個人旅行者含む)
- ・台湾旅行代理店10社程度で商品化。

【中核人材】

柴田 達人氏(阪神電鉄 甲子園事業部長兼甲子園球場長)



甲子園歴史館 正面



台湾映画KANOに関する展示コーナー

問い合わせ先

甲子園歴史館
〒663-8152 兵庫県西宮市甲子園町1-82
TEL:0798-49-4509 FAX:0798-47-1042
URL:<http://www.koshien-rekishikan.com/>

豊岡での日本版DMOの取組 —兵庫県豊岡市—

注目ポイント
DMO設立を契機にインバウンド集客に
取り組む

【地域の概要】

2005年4月、兵庫県の北東部に位置する1市5町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）が合併し兵庫県で最も面積が広い市となる。山陰海岸、氷ノ山という自然公園があり、観光では、城崎温泉、神鍋スキー場、出石城下町をはじめとする観光地や、豊岡かばん、出石そば、出石焼などが有名。

【課題等】

新しくなった豊岡市では、課題として、①観光地のマーケティング機能、②地域と地域、事業者と事業者をつなぐ機能、③地域ならではの旅行商品を作り、自ら観光客を呼び込む機能という3つの機能が必要だった。

◆取組の概要等

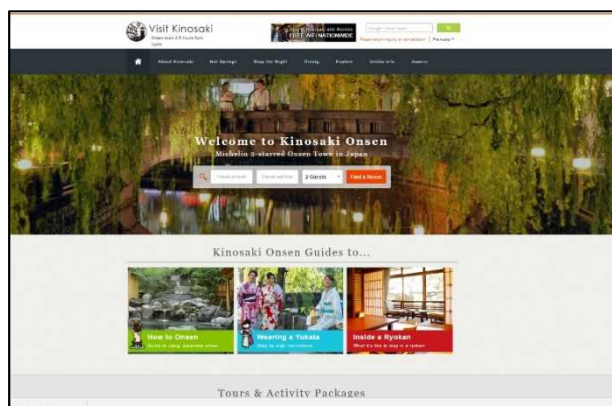
- ・一般社団法人豊岡観光イノベーション（豊岡DMO）を設立し、大きな集客力を誇る城崎温泉＋αの周遊を目標とした、着地型プログラム開発等を実施。
- ・2016年に取組をスタート。観光まちづくりの観点から、当該地域の関係者の力を結集し、顧客視点に立ち、地域の魅力を再編集して、地域の稼ぐ力を引き出し、地域経済の活性化に寄与することを目的としている。
- ・関係者に周知を図るため、市内の観光協会が集まる会議で取組を紹介し、理解に向けた働きかけを実施した。
- ・具体的な取組としては、外国人宿泊予約サイト「Visit Kinosaki」の運営、着地型旅行商品の企画販売。そのベースとなるものとして、ブランディングやマーケティングデータの収集、分析の取組もスタートしている。
- ・WILLER CORPORATION、全但バス、但馬銀行、但馬信用金庫、JTB、三井物産と連携。自治体は京丹後市と連携。

【取組の成果】

- ・外国人宿泊予約サイト「Visit Kinosaki」の稼働をスタート。観光情報の発信、着地型旅行商品の販売、マーケティングを行っている。稼働してまだ1年経過していないが、利用者は徐々に増えている。

【中核人材】

真野 毅氏（豊岡観光イノベーション 副理事長、豊岡市副市長）



コウノトリ
コウノトリの日本最後の生息地となった豊岡市では、長年にわたりコウノトリの保護・増殖への取組が行われています。

問い合わせ先

一般社団法人豊岡観光イノベーション
〒668-0033 豊岡市中央町2番4号
TEL:0796-21-9002 FAX:0796-23-7928
URL:<https://toyooka-tourism.com/>

情報発信外国人宿泊予約サイト「Visit Kinosaki」

丹波篠山での限界集落再生の取組 —兵庫県篠山市—



古民家再生から始まった地域再生

【地域の概要】

篠山市は兵庫県の中東部に位置し、東は京都府、南は大阪府・三田市などに隣接。大阪・神戸からの1時間圏域。基幹産業は農業。主な特産物には、丹波黒大豆、丹波栗、丹波松茸、牡丹鍋、丹波焼などがある。
本事例の対象となる集落丸山は、小さな谷筋の一番奥に位置する集落で、12戸のうち7戸が空き家になっていた。

【課題等】

人口の減少、農業の担い手不足、空き家の増加、耕作放棄地の増加、獣害の深刻化、里山の荒廃などの課題があった。

◆取組の概要等

- ・限界集落を再生し、古民家を活用した宿泊施設等の開発による地域再生に取り組む。
- ・住民ワークショップ等による対話で、住民に理解を働きかけた。
- ・再生には、設計事務所、工務店、ホテル事業者等と連携。
- ・古民家を活用した宿泊施設等の開発には、旅館業法や建築基準法の不合理な規制と事業資金の調達が特に大きな障害となった。
- ・空き家活用により、思いがけず、耕作放棄地の解消、里山の再生等につながった。
- ・宿泊や体験プログラムの予約は、Web予約、電話予約。
- ・その他の地区でも古民家再生事業を展開して、修復産業、食文化産業、クラフト産業、観光産業等に関わる若手人材の育成につながった。
- ・主要な情報発信ツールはHP。各種メディアに取り上げられ、特に雑誌の掲載、テレビ放映の効果が高かった。

【取組の成果】

- ・年間宿泊者数は、800人程度。
- ・現時点では、外国人利用者は少数であり、インバウンド誘客に取り組みはじめてところ。
- ・集落丸山での知見を活かし、篠山城下町など5地区で「分散型ホテル」事業を展開。
- ・2.1ha（H21）あった放棄地が、H27年には0.0haとなり、耕作地が4.2haに増加、また、世帯数も5戸から6戸に増えた。

【中核人材】

金野 幸雄氏（ノオト代表理事）



集落丸山



篠山城下町ホテルNIPPONIA



問い合わせ先

一般社団法人ノオト
〒669-2361 兵庫県篠山市立町190-6
TEL:06-7878-8983 FAX:06-7632-3336
URL:<http://plus-note.jp/>

「ならまち」の滞在型プログラムへの取組 —奈良県奈良市—

注目ポイント

町屋活用による賑わいの創出に成功

【地域の概要】

奈良町は、世界遺産興福寺の寺内町として発展し、豊かな地域資源を有している。日本を代表するクラシックホテルの奈良ホテルにも隣接し、奈良の賑わいを先導する重要な区域。

【課題等】

近年カフェや雑貨店、ゲストハウスがオープン。奈良市では散策用マップの作製やナイトイベントの実施、体験型施設のオープンなどで新しい層の観光客が増えている。しかし、日帰り型の観光への対応が中心で、宿泊客の夜の観光への対応が不足していた。

◆取組の概要等

具体的に行っている取組、事業やイベント

- ・ならまちナイトカルチャー（平成20年から実施）
「ならまち」で楽しく夜のひと時を過ごせる催し。伝統芸能の鑑賞や工芸体験などが、日替わりで楽しめる。
- ・「奈良町にぎわいの家」（平成27年4月開館）
売却されようとしていた、築100年の大規模な町家を購入して昔の町家の暮らしを体験できる施設としてリニューアルオープンした。
- ・珠光茶会（2月開催）の奈良町会場となっている。
- ・「奈良町南観光案内所」（平成27年11月開館）
奈良町の南の案内所として、町家をリニューアル。外国人観光案内所のカテゴリ-2を取得。
- ・その他、「奈良町格子の家」や「奈良町からくりおもちゃ館」等多くの施設がある。
- ・昔からの町家が空き家になり、現代風の建物が建って、景観が変わる中で、その保存と活用を目的に、町家の活用希望者と、所有者を繋ぐ、ならまち町家バンクを平成23年4月から開始。これまで10件が成約。希望者は飲食店をやりたいという人が多く、ゲストハウスをやりたいという人も増えている。店舗は、子供服・雑貨、奈良筆工房、絵描き教室、女性用エステとして利用されている。
- ・昭和63年から、町家の保存のために、外観の修理に対して補助制度を実施。
- ・観光案内板の設置など

【取組の成果】

- ・奈良町にぎわいの家は、開館1年で10万人の来場
- ・奈良町格子の家も平成4年開館以来、平成22年度について、平成27年度は、10万人の来館者数
- ・奈良町格子の家は、世界最大の旅行口コミサイト トリップアドバイザーが認定する『2015年 エクセレンス認証（Certificate of Excellence）』を受賞。

ならまちナイトカルチャー
のチラシ



奈良町南観光案内所



かつての花街あたり



鶴福院町から望む興福寺
五重塔



散策マップ



奈良ホテル

問い合わせ先

奈良市 観光経済部 奈良町にぎわい課
〒630-8335 奈良市鳴川町37-4
TEL:0742-24-8936 FAX:0742-24-8937
Email:naramachinigiwai@city.nara.lg.jp
URL:<http://www.city.nara.lg.jp/www/genre/0000000000000/1395299705868/index.html>

金魚のまち大和郡山の取組 —奈良県大和郡山市—

注目ポイント

地域の名物を活用したイベント継続で
地域活性

【地域の概要】

奈良盆地北部に位置する城下町。郡山城跡は、「日本の桜百選」にも選ばれている。また、江戸時代より武士の副業として始められた金魚の養殖が大変に盛んであり、輸出もされている。

【課題等】

取組以前の課題は、事業者や地域との関係のルールづくり。地域（関係組織等）及び住民・関係団体には実行委員として参画してもらった。

◆取組の概要等

- ・金魚のまち大和郡山をPR。
- ・イベント…金魚すくい選手権 大和郡山市大会・奈良県予選・全国大会・認定大会を開催。
- ・若手、後継者や新規人材の獲得と育成…高校生ボランティア・大学生ボランティア・公募による公認審判員発掘。
- ・箱本十三町観光案内所…2011年に住民から提供された建物を改修し、「大和郡山市観光ボランティアガイドクラブ」の拠点として、箱本十三町観光案内所を大和郡山市今井町に開館。案内所がある箱本十三町は豊臣秀長が構築した箱本制度で、13の町が1ヵ月毎に交替で治安・消火・伝馬等自治運営を行った。今も城下町の雰囲気が残っている。

【取組の成果】

- ・第1回大会（1995年）は全国から696人の選手が参加。その後回を重ねるごとに参加人数は増え、現在は定員の2,350人が参加。大和郡山市の夏の風物詩となった。
- ・金魚すくい練習会場を大会会場に開設。
- ・名所・旧跡や歴史・文化のある建築物や各所を巡る「歩きんとつ」という、まちあるきも行われるようになってきている。

【中核人材】

実行委員長（大和郡山商工会青年部長）※毎年交代



マスコットキャラクター「きんとつ」



全国金魚すくい選手権大会



歩きんとつ



大和郡山お城まつり



箱本十三町観光案内所

問い合わせ先

大和郡山市・全国金魚すくい競技連盟
〒639-1160 大和郡山市北郡山町248-4
TEL:0743-53-1151 FAX:0743-55-4911
Email:kankou@city.yamatokoriyama.lg.jp
URL:<http://www.city.yamatokoriyama.nara.jp/kankou/event/kchamp/>

外国人大学生の誘致に向けた取組 — 奈良県橿原市 —

注目ポイント
多様な体験プログラムによる、
外国人大学生の誘致促進

【地域の概要】

橿原神宮のある橿原市は、歴史ある都市で、飛鳥時代には国家の中心として、江戸時代には自由都市として栄えた。日本最初の本格的都城である藤原京、江戸時代の面影を残す今井町、神話と伝説が交差する神社仏閣、日本最古の歌集・万葉集ゆかりの地等、歴史的コンテンツを多く所有する。

【課題等】

国内での知名度は高いものの、海外での知名度が低く、誘客には工夫が必要だった。関西空港からリムジンバスで1時間、大阪市内からも約1時間の立地であるにもかかわらず、橿原市を訪れる外国人観光客は少ない。

◆取組の概要等

- ・奈良県の中南和エリアの中核都市として、橿原市が海外の大学生らをターゲットにインバウンド誘致
- ・韓国向けでは、体験プログラムのコーディネートを行っている一般社団法人「日本の寺子屋」と、韓国のフェリー会社「パンスターライン」と提携し、韓国釜山経商大学の学生の職場見学を橿原市内及び周辺市町村で実施し、且つ、橿原市の観光地において日本文化に親しむ機会を設けることで、将来、研修参加者が観光旅行先やビジネスの相手先に橿原市を選択することを期待して実施した。
- ・カザフスタンと台湾の学生も「日本の寺子屋」と連携。橿原市及び周辺市町村で日本文化や観光地に接する機会を設けている。日本企業の職場見学・日本文化体験・市内の学生との交流・観光地視察を実施している。
- ・参加者が橿原市を拠点として橿原市及び周辺市町村を周遊し、様々な職業や日本文化を体験したことで、帰国後周囲に本市のPRをしてもらっている。今後、さらに彼らが社会人になった後に思い出の地として再訪してもらうことを期待している。また、本市のインバウンド観光の受け入れ体制の課題も見えてきた。
- ・連携先としては、パンスターライン（韓国船会社）、大阪市港湾局、ニチュ三菱フォークリフト（研修先）、コトリ（研修先）、橿原神宮、橿原美容専門学校、市内幼稚園、こども園、奈良芸術短期大学等。
- ・主要な情報発信ツールとしてSNS（Facebook・Instagram）に、力を入れている。

【取組の成果】

- ・2年連続で橿原市内及び近隣市町村で外国人約1,000人が宿泊。
- ・橿原神宮参拝と今井町の見学を必ずコースに取り込んでいる。
- ・駅前再開発では市の誘致により新ホテルが開業予定。

【中核人材】

森下 豊氏（橿原市長）



橿原市を訪れた学生



着物体験をした韓国の学生



市内の幼稚園を視察研修

問い合わせ先

橿原市役所観光政策課
〒634-8586 奈良県橿原市八木町1-1-18
TEL:0744-21-1115（観光政策課直通）FAX:0744-21-4112
Email:kanko@city.kashihara.nara.jp
URL:<http://www.city.kashihara.nara.jp/>

「飛鳥民家ステイ」への取組 —奈良県高市郡明日香村—

注目ポイント

村内での一般家庭、村内外での学校との
連携による体験の実現

【地域の概要】

明日香村（あすかむら）は、奈良県の中央部付近に位置する村である。中央集権律令国家の誕生の地であることから飛鳥時代の宮殿や史跡が多く発掘されていることで知られ、「日本の心の故郷」とも言われている。人口は約5,700人

【課題等】

「明日香村特別措置法」には自然景観が維持され文化財が保護されているというメリットがある反面、人口の減少を助長する要因のひとつとなっていた。また宿泊施設が少ないことから明日香村は「通過型」の観光地であった。

◆取組の概要等

- ・体験交流型観光の企画及び実践（民家ステイ、体験プログラム）
- ・産業及び人材の育成、雇用の促進、人的交流の拡大。
- ・奈良県エリアマネジメント中間支援事業の推進(まちづくり)。

【具体的な取組】

- ・地域の理解に向けた働きかけ…民家ステイの受入家庭を発掘するセミナーを開催。
- ・国内教育旅行及びインバウンドの受入れにおける「民家ステイや各種体験プログラム」の企画、運営。
- ・同業種との連携、地域内外の民間事業者と着地型観光推進において連携。
- ・教育機関との連携…明日香村教育委員会、奈良県観光プロモーション課（学校交流の調整）、村内外の小中高校（学校交流実施）、県内外の大学（歴史ガイドツアー、学生コンソーシアム運営など）。
- ・若手、後継者や新規人材の育成及び、大学生との連携事業における地域で活躍できる人材の育成。

【目的】

- ・飛鳥地域における着地型観光の実現に向けて関係団体、及び法人、個人が協力して共に考え行動し、地域資源である「人、自然、歴史、産業、文化、交流」をテーマにした地域の活性化に寄与すること。

【効果等】

- ・子供への教育効果が高かった。地域の人々が地元の価値を再認識する契機となった。子供と関わることで生きがいを見出す高齢者が増えた。

【情報発信】

- ・パンフレット、HP、SNS、学校説明会、エージェント教育旅行担当者向け研修会の実施、下見や視察研修の受入れ。

【取組の成果】

インバウンド団体受入の推移

受入れ団体及び泊数総合計：2016年度 112団体6,305泊（内インバウンド受け入れ総合計62団体2,886泊）

【中核人材】

取組リーダー 吉田 宏氏（飛鳥ニューツーリズム協議会会長）



民家ステイ



棚田



飛鳥ニューツーリズム協議会



明日香村

問い合わせ先

飛鳥ニューツーリズム協議会
〒634-0112 奈良県高市郡明日香村島庄5番地(明日香村商工会館内)
TEL:0744-54-1525 FAX:0744-54-1526
Email:info@asukacom.jp
URL:http://asukacom.jp

「魚」と「無人島」を活用した取組 —和歌山県和歌山市（加太地区）—

注目ポイント

地域、観光協会、漁協が協力した
新しい取組

【地域の概要】

和歌山市郊外にあり、万葉の時代から湊見の浦と詠まれていた景勝地で、紀淡海峡に面して美しい海岸線が続く。魚釣りポイントとしても人気を誇る。また和歌山市北西加太沖には、瀬戸内海国立公園の紀淡海峡に浮かぶ、無人島群の友ヶ島があり、沖ノ島・地ノ島・虎島・神島の4島を総称する。戦前の砲台跡が点在する一方、緑深い照葉樹林が繁り、様々な植物・磯の生きものなどが生息する。

【課題等】

瀬戸内海国立公園に指定されてから各民間企業の観光開発によって加太港 - 沖ノ島間の航路が開設され、キャンプ場やバンガロー村として夏場は賑わっていた。しかし、2000年頃には観光客数が最盛期の1/5まで減少し、南海電鉄は2002年3月末に全ての友ヶ島観光事業から撤退。観光客の呼び戻しが課題であった。

◆取組の概要等

- ・「加太さかな線プロジェクト」：本プロジェクトは、地域と共に観光を盛り上げ、加太線沿線の魅力を発信するため、南海電鉄が加太観光協会・磯の浦観光協会と共同でスタートした。グルメや景色、温泉など旅の楽しみが詰まった自慢の沿線として魅力をPRしている。加太線内を走る車両の扉横に加太さかな線ロゴマークステッカーを貼り、旅情を盛り上げている。
- ・観光駅名看板：和歌山県立和歌山工業高等学校産業デザイン科の生徒が制作した観光駅名看板を設置している。
- ・加太漁協の昼市：加太漁港で毎月第1土曜日に加太の昼市（1月を除く）を開催。その日に水揚げされた新鮮魚介類をリーズナブルな価格で販売。量販店には無いような魚も取り揃えており、面白いと人気を集めている。プレミアム和歌山に認定されているタイとタコが名物。
- ・友ヶ島：映画、テレビのロケ地としての活用が増えている。友ヶ島の沖ノ島には120年以上経た6つの砲台跡があり、宮崎駿監督のアニメ映画「天空の城ラピュタ」のような光景が広がると話題となっている。
- ・和歌山市語り部クラブ：和歌山には、多くの歴史・文化や自然があることから、「語り部」がガイド役として活躍している。団体・個人を問わず案内。ほか、加太観光協会の語り部くらぶもある。

【取組の成果】

- ・和歌山市の観光客統計 2013年：和歌山市観光客総数6,100,661人(内外国人宿泊者数22,517人)→2015年：同6,424,720人(同107,381人)
- ・友ヶ島入島者数推移 2013年度：31,634人→2015年度：58,718人



加太の真鯛



友ヶ島



友ヶ島遠景

問い合わせ先

一般社団法人和歌山市観光協会
〒640-8146 和歌山市一番丁3
TEL:073-433-8118 FAX:073-433-8555
URL:<http://www.wakayamakanko.com/>

DMC成功の田辺市熊野ツーリズムビューローの取組 —和歌山県田辺市—

注目ポイント
着地型旅行業による、
インバウンド集客の成功

【地域の概要】

田辺市は、紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置しており、総面積は約1,026平方キロメートルと、近畿地方で一番広い面積を有している。古くから紀南地方の交通の要衝として栄えてきたが、この広大な市域の中には、美しい海、山、川の大自然をはじめ、世界遺産登録された「熊野古道」や「熊野本宮大社」に代表される古い歴史や文化、日本三美人の湯で知られる「龍神温泉」や日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」等の温泉郷など、人々の心と身体を癒す地域資源が数多く存在している。

【課題等】

日本版DMO事業が始まる前から、着地型旅行業に取り組む先駆的な事例として評価されている。

◆取組の概要等

- ・平成16年7月に、熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が、世界遺産リストに登録。平成17年に市町村合併（旧5市町村）により現在の田辺市が誕生。これに伴い市内の観光協会で構成する任意のPR組織として平成18年に田辺市熊野ツーリズムビューローを設立。
- ・その後、一般社団法人となり、着地型の旅行業「熊野トラベル」を開業。世界遺産熊野古道を中心とした情報発信、とくに欧米からの観光客誘致に取り組む。
- 〈PR事業〉
- ・多言語ホームページの作成、国内外のメディアツアーの実施、宿泊事業者への外国人対応セミナー「外国人観光客対応レベルアップセミナー」の実施など。
- 〈DMC（着地型旅行業）〉
- ・着地（目的地）での現地情報や地元のネットワークを活かしたきめ細かいサポート、クレジットカードによる前金制のインターネットによる旅行予約システム、電話やFAXを活用したエリア内の中小宿泊施設への受け入れ支援など。今後は旅行予約システムをリニューアルし、マーケティング機能を備え、かつ、詳細なデータも蓄積される。

【取組の成果】

- ・2006年4月組織を設立
- ・2010年5月法人格取得
- ・2010年7月第2種旅行業取得
- ・2016年2月観光庁の地域型日本版DMO候補法人に登録
- ・インターネットを利用した旅行予約システム売上：平成23年度4,000万円⇒平成27年度1億9,500万円

【中核人材】

多田 稔子氏（田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長）



世界遺産 熊野古道 外国語音声ガイド 旅行予約システム



（左）紀州田辺石神梅林

（右）鬩雞神社（とうけいじんじや）

問い合わせ先

一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー
〒646-0031 和歌山県田辺市湊1番20号
TEL:0739-26-9025 FAX:0739-26-5820
URL:www.tb-kumano.jp/

「秋津野ガルテン」のグリーンツーリズムの取組 —和歌山県田辺市—

注目ポイント

廃校利用によるグリーンツーリズムで
集客に成功

【地域の概要】

秋津野ガルテンがある上秋津地区は、平安時代には集落が形成されていたと言われ、熊野古道の大辺路、中辺路ルート of 分岐点田辺市にあり、右会津川を上ると日本三美人の湯とされている龍神温泉を経て、真言密教高野山に至る、南紀の海岸地域と紀伊半島の山村文化をつなぐ役割を持った農村文化圏として人々の交流を担ってきた。

【課題等】

農業を取り巻く環境は厳しく、廃園や遊休地の増加、担い手や労働者不足など、さまざまな問題がある。その解決法のひとつとして、グリーンツーリズムに注目した。

◆取組の概要等

- ・秋津野ガルテンは田辺市上秋津地域に平成20年11月1日オープンした、大きなクスノキと旧上秋津小学校の校舎がシンボル。
- ・都市と農村地域の交流を楽しむための体験型グリーンツーリズム施設。スローフードレストラン『みかん畑』ほか、簡易宿泊所、農業作業の体験や地元の柑橘を使った、お菓子づくり体験ができる『バレンシア畑』や、みかんの樹オーナー制度、市民農園などで構成。
- ・秋津野ガルテンを運営する農業法人 株式会社秋津野は、全株主の半分以上、そして取締役員の3分の2以上が農業者。出資者は489名で資本金5180万円でソーシャルビジネスで地域の活性化のための事業を行う株式会社。次世代リーダー育成のためシンクタンクも設立した。着地型旅行業の登録も行っている。

【目的】

- ・「みかんの種類が日本一、年間80種類が育つ」など農と地域資源を活かし、グリーンツーリズムで都市と農村の交流を行う。事業は、利益追求を目的にするのではなく、地域に雇用や経済効果のあるソーシャルビジネスを推進することで、地域課題の解決をはかり、持続可能な地域の活性化につなげていく。

【取組の成果】

- ・2016年：有料入場者数7万弱、レストラン4万人利用。
- ・簡易宿泊所（7室・定員32人）年間約3,000人利用。外国人利用2016年度550人（2月末現在）（前年比275%）
- ・「グリーンツーリズム大賞2010」優秀賞受賞
- ・第7回オーライ日本大賞受賞（2009年）
- ・ソーシャルビジネス55選

【中核人材】

玉井 常貴氏（農業法人株式会社秋津野 代表取締役社長）



秋津野ガルテン 外観



宿泊棟と体験等



スローフードレストラン「みかん畑」

問い合わせ先

都市と農村の交流施設 秋津野ガルテン
〒646-0001 和歌山県田辺市上秋津4558-8
TEL:0739-35-1199 FAX:0739-35-1192
Email:info@agarten.jp
URL:http://agarten.jp

熊野本宮温泉郷の温泉連携の取組 —和歌山県田辺市—



温泉地の連携による地域ブランド力UP

【地域の概要】

仙人風呂で知られる川湯温泉、世界遺産にある温泉地の湯の峰温泉、庭園露天風呂のある宿で知られる渡瀬温泉と世界遺産エリア内の近隣にある温泉ながら、風情や泉質、文化などが異なるユニークな温泉郷。

【課題等】

観光協会とその会員それぞれでの観光情報発信等で統一感がなく、本宮町の中だけで三つの温泉地があることを知っている方が少ないなど、温泉郷としての認知度が低かった。また、増加する外国人旅行者に対して、個々の施設での対応の問題や、案内表示看板などは日本語のみのものが多く不便を掛けていた。

◆取組の概要等

- ・川湯温泉、湯の峰温泉、渡瀬温泉の三温泉の総称名を熊野本宮温泉郷として統一すること、また、外国人おもてなし委員会を設立することにより、各温泉地の連携をより深める受け入れ態勢の充実や情報発信の強化を図り、国内はもとより世界各国からの誘客の増加に取り組む。
- ・パンフレットやホームページ、メディアを介してのPR強化。外国人おもてなし委員会を開催し、外国人目線に立った対応力アップに向けおもてなしの充実を図っている。

【取組の成果】

- ・取組以前である平成25年の観光客数136万6,154人、宿泊客数は12万1,109人⇒平成28年観光客数149万9,684人、宿泊客数13万1,134人となり、観光客数で13万3,530人の増加、宿泊客数で1万25人の増加となった。
- ・平成25年の外国人宿泊客数2,859人⇒平成28年外国人宿泊客数1万7,155人となり、1万4,296人の増加。
- ・第28回につぼんの温泉100選(2014年度) 99位、第29回につぼんの温泉100選(2015年度) 84位、第30回につぼんの温泉100選(2016年度) 78位
※観光経済新聞社主催 (川湯や湯の峰では選出されなかったものを温泉郷にして知名度アップとブランディングを行った)

【中核人材】

菊池 博子氏（熊野本宮観光協会 会長）



川湯温泉



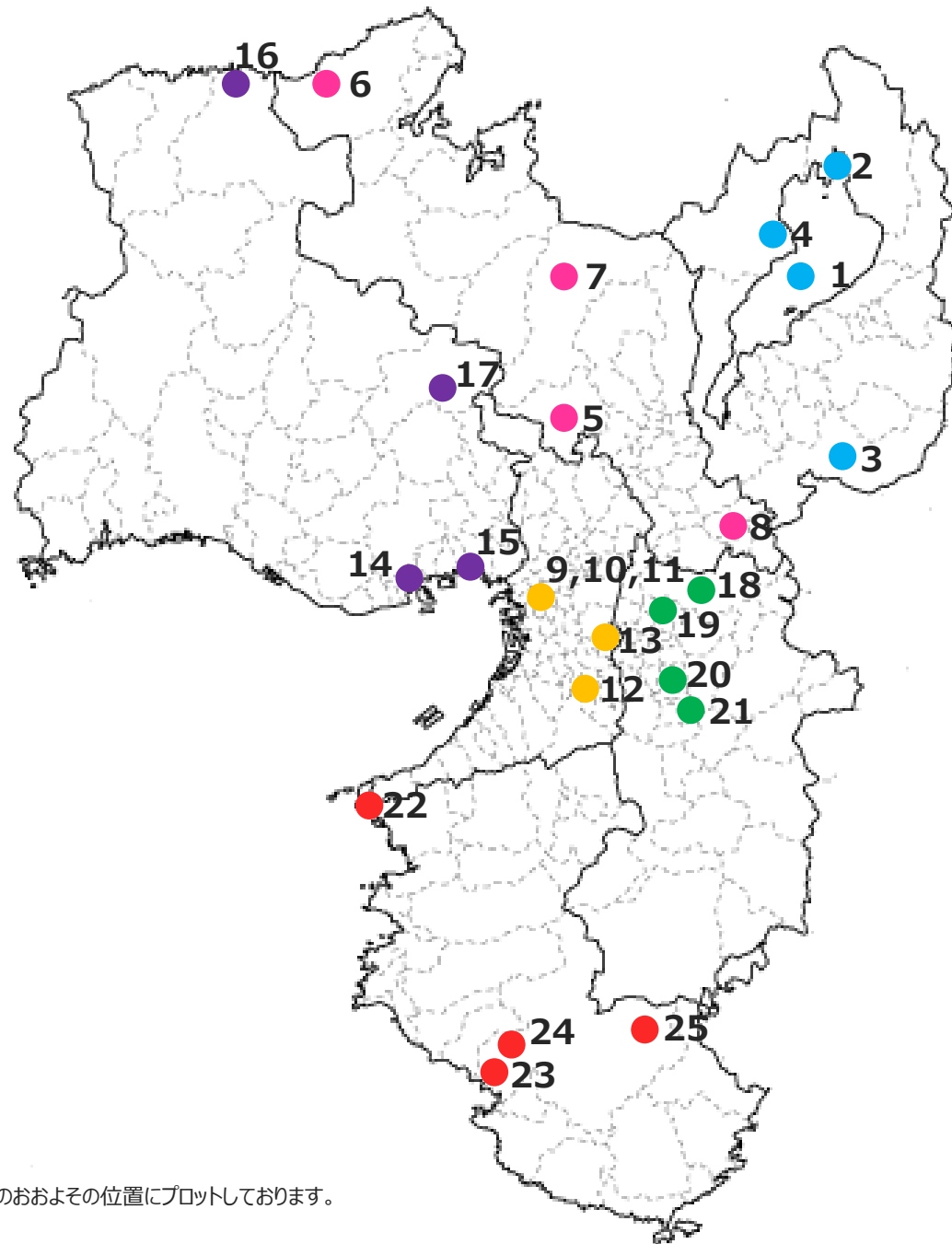
湯の峰温泉



渡瀬温泉

問い合わせ先

熊野本宮観光協会
〒647-1731 和歌山県田辺市本宮町本宮100番地の1
TEL:0735-42-0735 FAX:0735-42-1606
Email:info@hongu.jp
URL:http://www.hongu.jp/



各事例のあたりに記載した番号を地図上のおおよその位置にプロットしております。